

学校紹介

感想Dさん

大崎上島に初めてきた時の第一印象は、自然が豊かである。東京や福山に住んでいた時は想像すらできなかった、視界の中の至るところに入ってくる緑の色がなんとも言えなかった。さらにこの広島叡智学園は寮生活。みんなホームシックにかかっていた。そして行き帰りの船は必須。島に橋はかかっているものだと思っていた。

そんな私はいつか、地域の方のビニールハウスにトマトを収穫しに行ったことがある。私自身あまりアウトドアは好きではなかったが、トマトは好きなので行ってみることにした。あの時のトマト農園はとても楽しかったのを覚えている。大きく、太陽の光をいっぱいに浴びたトマトはしっかりと頬をそめ、私たちを見つめていた。私には感動のよいうな、嬉しいようなそんな感情があった。きっとその地域の方も同じような感情だったのかな、と今では思

う。採集した後はその方のお宅で採集したトマトを頂いた。とても甘く、みずみずしかった。お菓子もくださった。その時に私の中でも大崎上島のイメージはとても温かい人たちが住んでいるんだなというイメージへと変わった。さらに島民の皆様は私達にとっても親切にしてくださった。いろいろなことを企画してくださった。いつも見守ってくださった。今では本当に感謝している。

もう一つイメージが変わった大きな日があった。インターシップの観光業で島をPRした時だ。トマトの収穫の日から、私は島がちよっと好きになった。そして、様々な人と出会い、発見をした。夏休みの一週間前には家族と一緒に、気になっていた神峰山に行ったりもした。観光案内所の方々をはじめとした島のいろいろな方々には学校の未来創造科の授業内でたくさんお世話になった。島内のそのような方々やスポット

をテーマに沿ってPRするというのが今回のインターシップのテーマだった。私達のチームは外国人向けのプランを考えた。メンバーの意見で体験型とSNS発信を柱とした観光にすることとなった。当日。私たちは疲れながらも、自転車で島を巡った。自転車で巡っていると島の風が私の横を通り抜ける。磯の香りに包まれた、大崎上島の海の色をしているように透き通った風。体験することで自分たちで感じ、発見することができた。岩白地区の白い岩と海。中原観光農園の太陽をいっぱい浴びたみかん。観光案内所のみかん葉の鯨。珈琲陶での陶芸体験……

このインターシップで私は島への愛着が湧いた。いや、元々湧いていた気もあるのだが、この時に自身の心に何かがこみ上げてきた感じがしていた。この感情は、おそらくその愛着とかなんかに大袈裟に言っている

が、今まで思っていた大崎上島のイメージがさらに広く、深く掘り下げられた感じだった。

日本には「住めば都」ということわざがある。大崎上島もまさにそうだなと思った。大崎上島には良いところは山ほどある。それを八ヶ月間で気づかせてくれたこの島の方々には本当にありがとうと言いたい。あと五年間、この島で過ごす時間を大切にしていこうと思う。

この綺麗な海を、山を、温かい人々を、お日様を、空を、『大崎上島』を。次の広島叡智学園生に。世界中の人々に発信していく。

